

令和6年度「不登校に関する研修会」(第1回) 講義記録

- 1 日 時 令和6年7月23日(火) 10時から16時
- 2 場 所 姫路市市民会館
- 3 講 師 兵庫教育大学 井澤 信三 教授
- 4 テーマ 「発達特性のある不登校児童生徒の理解と支援」
- 5 内 容

(1) 二次障害としての不登校の理解と支援

ア 二次障害とは

- ・強い特性を持った個人が集団の中に入り、共に過ごすことで生じてくる行動面、情緒面での問題
- ・行動上の問題 「非」社会的な行動・・・不登校、ひきこもり 等
「反」社会的な行動・・・非行、暴力、怠学 等
- ・身体的な問題 心身症(頭痛、腹痛 等)
- ・心理的な問題 うつ傾向、分離不安、社会不安、脅迫行為、統合失調症、気分障害、不安障害、適応障害、反抗挑戦性障害と行動障害 等

イ 発達障害の付随症状と二次症状

- ・付随症状・・・基本症状ではないが、幼児期から付随することの多い症状
- ・二次症状・・・基本症状や付随症状への不適切な対応によって、状況依存的、反応的に生じてきた症状
- ・発達障害的な行動傾向から二次的な障害が現れることで、他者から「頑固、勝手、わがまま、一方的、被害的、攻撃的」と捉えられ、付随的な症状(メンタル面の不調、アトピー等のアレルギー)として現れることがある。

ウ 発達障害がある(かもしれない)生徒との関わり

(ア) 信頼関係を作り、その人の「人となり」をつかむ。

- ・不合理な言い分も、そう思ったということを受け止め、否定しない。
- ・うまくいったこと・いかなかったこと、趣味、乗ってくる話、大切にしていること、好きなこと・嫌なこと等、価値観や考え・思いを言葉にしてもらい、理解につなげる。

(イ) 「支援ありき」の対応をする

- ・診断の有無で、必要な支援が変わることはない。
- ・「よく見てもらっている」という信頼感が次につながる。
- ・「支援ありき」の対応を相手に実感してもらうために、生活がスムーズに送れるようにどのような援助をするか伝えたり、生徒の不自由を理解したりする。
- ・発達障害のある人の生活は、学校卒業後も続くため、卒業後の生活を見据える。

エ 発達障害における二次障害の予防

- ・一次障害よりも、二次障害の有無によって予後が影響される。
- ・その人の特性を理解し、その特性に合わせた対応・環境調整が求められる。

【当事者の語り】

- ・どんな時に笑って良いのか、笑ってはいけないのか分からなかった。

- ・学校はジャングルのようで、予測不能な所だった。
- ・自分にあったやり方を認めて欲しい。

(2) 発達障害と不登校

- ・不登校児の 57%が ASD や ADHD 等の発達障害、24%が不安障害など
- ・87%が不登校になってからの診断、91%が睡眠障害や頭痛などの身体愁訴がある。
- ・不登校の誘因は複数有るが、対人関係が多い。
- ・1年後の転帰・・・完全登校 48%、部分登校 26%、不登校 26%
- ・1年後の不登校・・・発達障害あり 17%（半数以上が通常学級からの変更）
発達障害なし 42%

ア 予防的観点のポイント

- ・教師一人一人、学校全体で、個々の児童生徒にとっての学校の価値を高める。
- ・常日頃から児童生徒の理解を心がける。

イ 初期的な対応のポイント

- ・学校へのアクセスの確保（場所、時間等）
- ・学校外のリソースへのアクセス確保（教育支援センター、フリースクール等）
- ・土日や放課後の社会とのつながりの確保（サークル活動、塾、習い事、趣味等）
- ・家庭場面での活動の豊富化（生活リズム、手伝い、学習、家族とのコミュニケーション）

ウ 長期化・慢性化への対応のポイント

- ・保護者がどこかの人・場所とつながる。
- ・本人や家族の実態、希望を再度理解し、具体的プランを計画する。プランでは、社会（学校を含む）で生活する事を目標にする。そのためには、「誰」が「何をするか」を考える。そして、つながる「人」「場所」「時間」が大事である。

エ 本人主体の問題解決へのアプローチ

- ・トラブルを解決するための「通訳的役割」
- ・合理的説明・・・本人の考え方や価値観等に合った説明
- ・選択を説明する、視覚的な図式化（例：進路選択の際のメリット、デメリット）
- ・エンパワメント

オ 集団の中で

- ・本人の選択の尊重
- ・受容と関係づくり
- ・適切な行動の促進
- ・地域・生活の中の一人として支え合う（本人から見た「話せる人・会いたい人」などを把握し、誰かと将来的につながれるようにする）

(3) まとめ

発達障害の診断の有無にかかわらず、本人の理解に努めることが大切である。そこから信頼関係を築き、本人の特性に応じた対応や環境調整をすることで、二次障害による不登校の未然防止や子どもに合った支援につながる。発達特性のある人が社会に出た時に、誰かとつながりながら生活できるようにすることが最終的な目標になる。

（記録：県立但馬やまびこの郷）